

4-4 施設別指針

1 道路

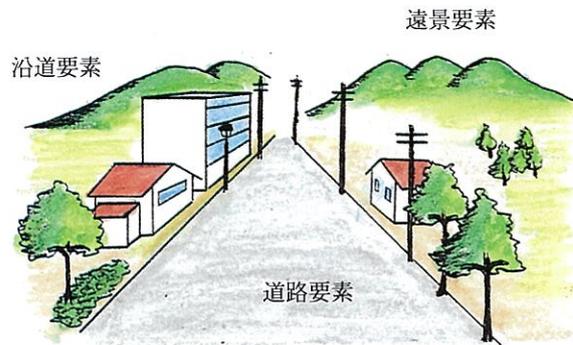
1.1 道路景観について

■道路景観の構成要素

道路景観の対象は道路そのもののほか、同時に眺められる周辺の景観も重要な要素である。すなわち、道路景観の対象は、①道路要素 ②沿道要素 ③遠景要素の3つから構成されている。

これら3つの要素が互いにうまく調和することによって、良好な道路景観の形成が図られるのである。

この構成要素それぞれが道路景観のなかに占める影響力は、概ね、景観を画面に見立てたときに占める割合の大小に関係すると考えられ、すなわち、広幅員道路では道路要素の占める割合が高く、狭幅員道路では主に沿道要素の占める割合が高くなる。

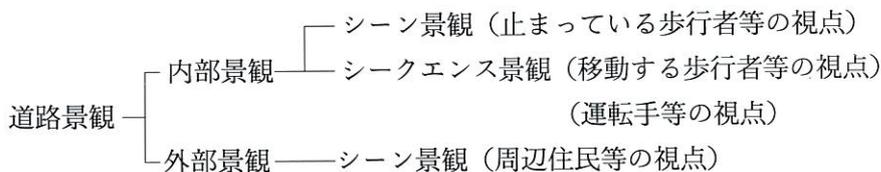


■道路に特徴的な景観

道路景観の特徴は次の2つである。

- ① 道路の内・外に視点があり、その位置の違いにより景観が異なる。
- ② 道路内の視点は移動することから、視点の位置と移動速度により、それぞれ景観が異なる。

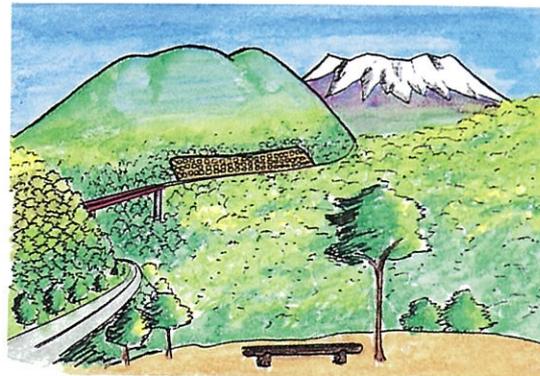
以上のことから、道路景観は次のように区分される。



内部景観の視点としては、横断構成や舗装面、道路付属物等の道路自体のづくりが景観の中心となり、外部景観の視点では、橋梁や法面等の側面的な見え方が景観の中心となる。



内部景観（道路敷内）



外部景観（道路敷外）

シーケンス景観の視点では、景観の対象は全体形状やバランス等に向けられるが、シーン景観の視点では、道路の舗装や付属物の材質、模様等の細かな点が景観の中心となる。



シーケンス景観の例

■景観整備の基本理念

基本理念	検討項目
<p>○道路における地域性、個性の表現 気象条件、植性、歴史等を踏まえると共に、道路の性格(高速道路から裏路地まで)に応じた、個性的な道路景観となることが必要である</p>	<p>①周囲の景観要素 ②植栽 ③地場材料 ④道路内の要素デザイン ⑤道路の性格</p>
<p>○道路景観要素の調和 デザインの対象及び景観のコントロールの対象を道路内に限定して考えるのではなく、周囲の自然や沿道のまち並み等の道路外の要素にも広く求め、道路内の景観要素と全体との調和を図る必要がある</p>	<p>☆各要素の設計と、全体の調和 ①主役、脇役の判断 ②基本的な色、素材、デザインを検討し各要素の詳細設計へ ③写真と現実の格差を認識し、景観を様々な角度から検討する ☆沿道とのかかわり ①歴史的なまち並みでは控えめなデザイン ②都市部では、沿道の建築物や看板のデザインに配慮 ③沿道の公園・広場との一体整備</p>
<p>○道路の使い方に則した景観整備 地域社会における道路の使われ方の多様性に配慮したうえで、道路空間を構成する。自動車の通行や駐車帯及び歩行者の通行や休息等のために、それぞれの領域の必要性を問い直す必要がある</p>	<p>①不法駐車や駐輪など道路の使われ方に則して景観整備 ②道路は様々な都市的活動の場 ③地域の気象条件などを配慮した使いやすい道路 ④交通弱者に対する配慮も大切</p>
<p>○時間と共に美しさが醸成される景観整備 道路の公共空間としての永続性を考えれば、その景観も一時的な美しさを考えるのではなく、永く使われることによって醸成されていく美しさを重視する必要がある</p>	<p>⑤飽きのこないデザインが必要 ⑥材料は安全性、耐久性に加え時間の経過と共に質感の高まるものが好ましい ⑦維持管理、補修などの仕組み、道路愛護や地域を誇りに思う意識の高揚</p>

資料：「道路景観の創造のために」(財)道路環境研究所

1. 2 景観整備の考え方

道路は、地域間交流や産業振興など、社会生活上欠かせないものである。その整備に当たっては、路線の適切な選定等それぞれの地域特性や周辺の景観との調和に配慮して進める必要がある。

■ 整備の考え方

1. 沿道地域の特性や快適性に配慮した景観形成に努めること。
2. できる限り全体のバランスや連続性に配慮した形態及び意匠とするよう努めること。

道路は規格、地域特性、沿道環境、交通の質と量等によりそれぞれ異なる性格を持つ。道路の景観整備に当たっては、道路整備事業の基本方針を踏まえた上でそれぞれの道路の性格に適した景観整備のあり方を考えることが重要である。

特に「都市の顔となる道路」や「景勝地の道路」では景観整備に慎重な配慮を必要とする。

● 道路景観の計画・設計の原則

① 道路の性格に応じた設計を行う

道路の計画設計ではそれぞれの道路の性格にふさわしい景観形成を図っていく必要がある。

② 道路利用者及び地域住民のためのデザインを考える

道路は、そこを利用する人々や沿道の住民等から快適に利用され、親しまれるものであることが望ましい。したがって、道路の景観整備では、人々が好む道路や沿道地域のイメージを大切に守りながらデザインを行う必要がある。

③ バランスのとれた姿に仕上げる

橋桁、橋脚、擁壁等の構造物、あるいは道路の横断構成については、構造上の安全や交通の安全を確保したうえで、さらに道路の美観を高めるよう全体のバランスや連続性を見直して形状、寸法、デザインを検討する必要がある。

④ 「統一」「メリハリ」を考える

道路景観整備は、道路敷地内だけでなく、沿道の諸施設、土地利用ともバランスのとれた景観となるよう配慮する必要がある。

ただし、空間的にあまりにも「統一」的であり過ぎると、画一的な道路景観となってしまう恐れがあるので、交差点、橋梁、トンネル、路側の広場等、道路線形や構造の変化点を利用して景観に「メリハリ」をつけることも必要である。

⑤ 時間と共に道路景観を育てる

景観は、時刻や天候、季節によって変わるものである。また、長い年月の経過により、素材が古びたり、植物が大きく育つことによっても変化する。このような自然と人為の力をうまく活用し、時間と共に味わいが増し、整備効果が高まるように、景観を育て上げていくことを配慮する必要がある。

●道路の性格と計画設計上の留意点

道路の分類		道路の性格と計画設計上の留意点
地方部の道路	景勝地の道路	<p>道路利用者にとって、周辺の美しい眺めは最良の景観構成要素である。したがって、景勝地の道路では眺望性の確保に努めるとともに、適当なカーブを導入するなど線形を工夫し、ドライバーに周辺の景色をより効果的に見せるように配慮することが望まれる。</p> <p>また、地域の美しい自然を損なうことのないよう、周辺の地形や環境になじんだ道路線形や構造形式を選択することが重要である。長大切土や高盛土等による地形の改変があるときは、ラウンディングや植栽等により、良好な景観が得られるよう工夫することが大切である。</p>
	田園地帯の道路	<p>広々とした田園地帯を通る道路は、その開放的な眺望が道路景観の特徴でもある。したがって、このような道路では、視界を阻害するような植栽等の設置は避けた方が好ましい。</p> <p>また、盛土構造とする場合は、できるだけ緩やかな勾配の低盛土とし、周辺の地形との調和に配慮することが望まれる。</p>
	山地の道路	<p>山地の道路は地形が起伏に富むため、変化のある快適な道路景観が期待できる。可能な限り線形を工夫して、樹林の通過や峠ごえによるパノラマを組み込むなどダイナミックな景観変化を与えるように配慮することが望まれる。</p>
	一般の道路	<p>一般に地方部の道路では個性のある景観形成が難しい場合が多いが、路肩をソフトショルダーと柔らかみを持たせる、標識類の整理・統合を図るなどの配慮が望まれる。</p> <p>また、沿道広告、土地利用の規制等により、良好な道路景観の維持・育成を図ることも大切である。</p>
都市部の道路	目抜き通り	<p>目抜き通りには、都市の顔となる風格を持った道路がふさわしいといえる。</p> <p>このような道路では、「ビスタ」(vista)の形成が典型的な道路景観構成の形式のひとつである。したがって、目抜き通りでは「ビスタ」の形成が図られた直線の線形が望ましく、沿道建物の壁面線および高さの連続と統一、アイストップとなる構築物による道路延長の適度な分節等を考えることが望まれる。また、植樹帯と歩道を十分にとり、歩道を両側に配置するなど、左右対象な構造とすることも大切である。</p>
	繁華街	<p>繁華街の魅力は、沿道の商店やそこに集まる人々によっても創られる。したがって、繁華街の計画設計では、沿道の商店やそこに集まる人を引き立たせる配慮が望まれる。また、人々がくつろぎ楽しめる雰囲気を作り出すことも大切である。</p> <p>例えば、両側の歩道幅員を変える、ポケットパークを設置するなど自由な発想による設計を行うのも一案であろう。また、片側植栽や独立樹等、植栽方法を工夫することにより繁華街の魅力が高まるケースも多い。</p> <p>ただし、ストリートファニチャーや植栽等の設置にあたっては、交通機能面からも十分に考慮した設計を行うことが重要である。</p>
	歴史的町並み	<p>歴史的町並みはそれ自体が個性となり、道路の景観形成に資するものである。このような道路では、できるだけ従来の町並みを生かし、取り込んだ形で整備を行うことが望ましい。</p> <p>植栽や舗装等も新たなデザインモチーフを持ち込むことはできるだけ避ける方が好ましく、生垣や上塀等、町の中に古くから根づいているモチーフを効果的に利用し、なじませることを第一に考える必要がある。</p>
	一般の通り	<p>都市部の道路では、標識類をはじめ、照明灯、電柱あるいは沿道広告等が多く設置され、道路景観が煩雑化する傾向がある。</p> <p>このような通りでは、道路に設けられる諸施設の整理・統合を図り、広告類の規制を行うなど煩雑な要素をできるだけ取り除くことにより道路景観の向上を図ることが望ましい。</p> <p>また、細街路、沿道建物及び地下空間への出入口等により歩道等が分断され、煩雑化することにも配慮が必要である。</p>

資料：「道路景観整備マニュアル」建設省

●道路景観整備の目標

道路景観整備は、道路の性格に応じて、たとえば、右に示すような整備の目標を設定し、各事業段階での景観整備方針を検討することが望まれる。

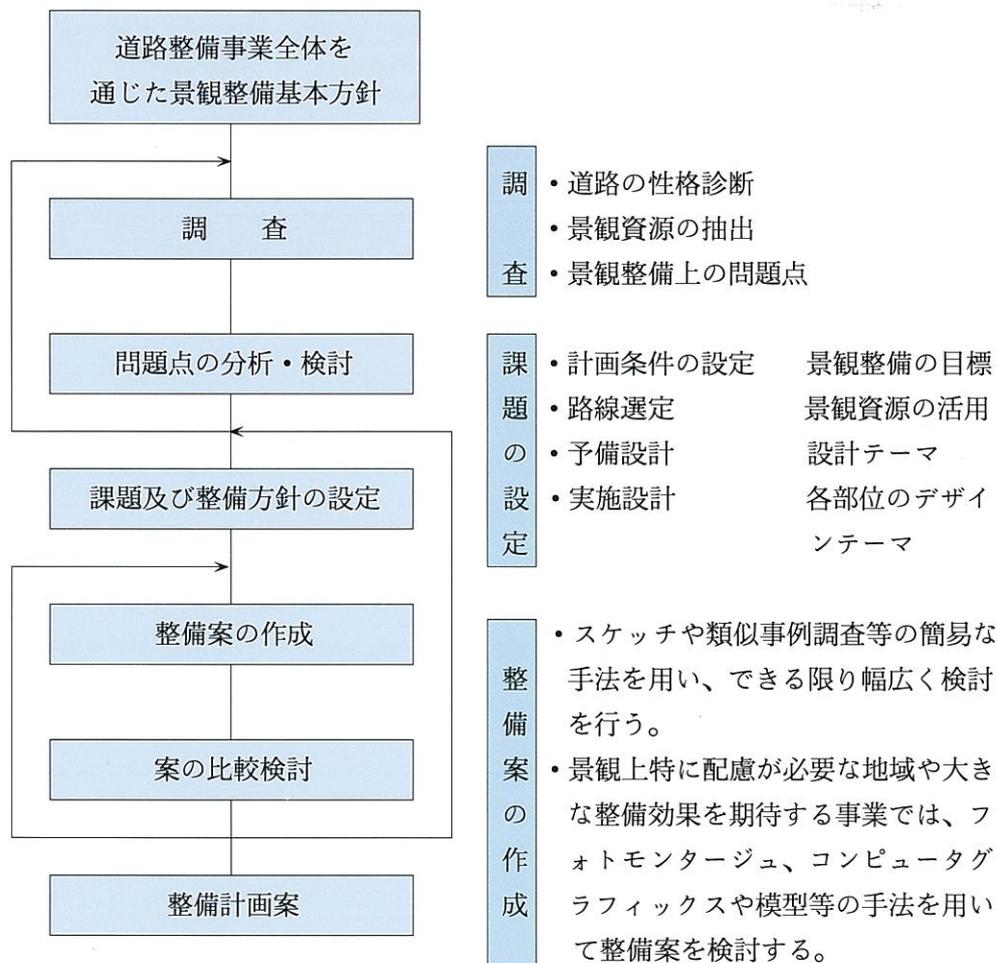
道路景観整備の目標例
①個性・地域性を表現する
②歴史を感じさせる
③風格をつくる
④華やかにする
⑤すっきりさせる
⑥周辺と調和させる
⑦四季を感じさせる
⑧時間の推移で良くなるようにする

■ 路線の選定

1. 道路自体が良好な景観資源となるよう、種々の制約条件や土地利用、地域の将来動向等を十分に把握し、周辺の景観と調和するよう努めること。
2. 地域のランドマーク等の景観資源を利用するよう努めること。

●景観検討の手順

各事業段階毎に実施される景観検討の一般的な手順を下図に示す。調査、課題の設定、整備案の作成の3つの段階より構成され、適宜フィードバックが行われる。



道路景観検討手順

●道路整備事業の流れと景観整備上の配慮事項

道路整備事業の流れ		道路景観整備上の配慮事項
①計画条件の設定	道路整備基本方針の設定 構造規格の決定	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地域の景観特性の把握 *1 ・道路の性格の明確化 *2 ●道路景観整備の目標の設定 *3 ・道路景観整備の基本方針の設定 *4
②路線の概略検討	ルート選定	<ul style="list-style-type: none"> ●景観資源の活用・保全 ・遠景要素（山、建造物等） ・地域特性（気象、植生、材料等） ・沿道状況 ・将来の見通し
③予備設計	横断計画 線形設計 道路構造の計画 主要構造物の計画	<ul style="list-style-type: none"> ●設計テーマの設定 ・横断面の構成（植樹帯、遮音壁等） ・地形や土地利用と調和した線形 ・景観に及ぼす影響の少ない道路構 ・基本的なデザイン、色、素材の設定
④実施設計	道路詳細設計 主要構造物詳細設計 属物等配置計画 維持管理計画 運用計画	<ul style="list-style-type: none"> ●各部位のデザインテーマの設定 ・構造物、舗装、照明等、植栽、ストリートファニチャー等の道路構成要素の検討 ・植樹・施設の維持管理計画の立案
⑤施工	道路工事	<ul style="list-style-type: none"> ・施工期間中の修景
⑥維持管理	維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃、修繕 ・道路占有物の規制 ・道路愛護

- *1 計画地域の景観特性の把握 (例) 自然公園内を通過する道路
- *2 道路の性格の明確化 (例) 繁華街の道路
- *3 景観整備の目標 (例) 華やかな道路をつくる。
- *4 景観整備の基本方針の設定 (例) 「何」を「どこまで」整備するか。

●線形について

○景観的に価値の高い地域における道路の新設にあたっては、周辺の景観に対する十分な配慮を行う。

(道路が眺められる対象となる場合)

- ・主要な眺望点より道路が見えないように工夫をする。(緑化等による)
- ・現況の自然の過大な改変は避ける。
- ・大規模な法面など、背景と対象的に認識される構造物が生じないよう配慮する。

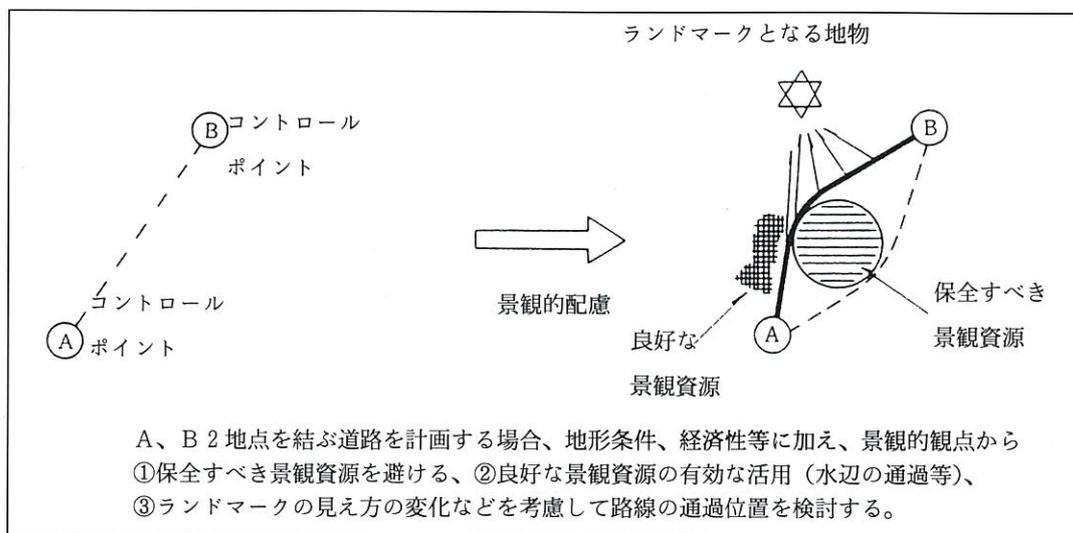


林道西林木鱒淵寺線（出雲市）
出雲平野から見られない工夫をしている



林道西林木鱒淵寺線（出雲市）
鳶が巣跡からの眺望

- 地域に存在するランドマークなど、道路景観の質を高める景観資源を積極的に取り込むよう配慮する。（景観資源の活用、道路から眺める場合）
- ・単に同一方向から見せるだけでなく、見え隠れを生じさせるよう、変化のある路線の選定に配慮する。
 - ・水辺、並木、古くからのまち並み等の良質な沿道景観を巧みに利用して人々の心のやすらぎとなるよう路線を選定する。



景観を考慮した路線の選定

- 周辺の地形や景観に対して適正な線形となるよう工夫する。
- ・山間部においてはできる限り地形や地物に沿った線形とし、主要な眺望点から景観を考慮するとともに、自然の改変をできる限り抑える線形を選択する。
 - ・田園部、丘陵部など、地形的変化が穏やかな地域においては、平面、断面線形ともにできる限り曲線を主体とした構成とし、周辺の景観との調和を図る。
 - ・地域の景観資源を積極的に活用した歩行時、走行時の景観変化や眺望性に配慮する。



主要地方道浜田美都線（美都町）
森林の中をカーブすることで、路線は印象的になる



町道段原式部線（斐川町）
出雲平野を眺望する

○構造

- ・大規模のり面や盛土等の周辺に大きく影響を及ぼす恐れのある構造はできる限り避けるなど、地域の景観を乱さない適性な構造を検討する。
- ・やむを得ず生じる法面については、各項に示す指針に準じた景観形成を図る。

1. 3 設計等の配慮事項

■ トンネル

坑口部は、走行上の違和感を与えないよう、周辺の景観と調和した坑門形式や壁面処理に努めること。

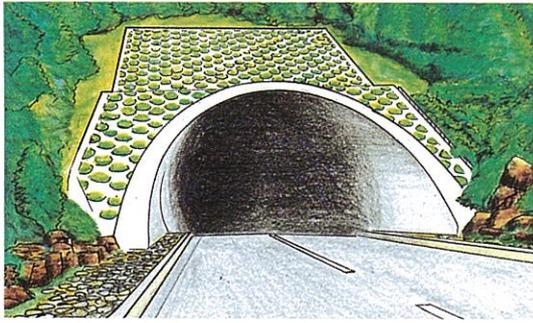
- ・トンネル坑口は圧迫感を軽減するため、坑口を広く見えるようにしたり、柔らか味のある表面処理や緑化を施すことが有効である。
- ・トンネル内においては、安全、快適な通行を確保するため、照明、防音、換気等に配慮する。



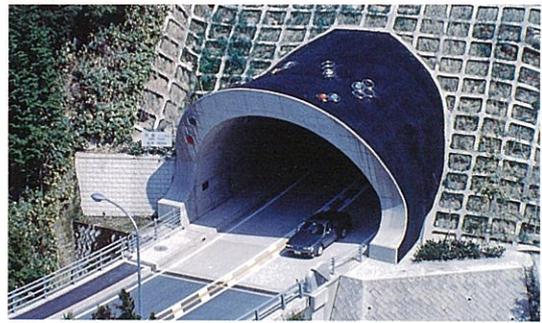
桧山トンネル（松江市）
坑口壁面は化粧型枠処理



桧山トンネル（松江市）
内装材により明るいトンネル



坑口を修景して入り口の圧迫感を緩和した例



奥出雲おろちループ（横田町）
坑口を突出させ自然を修景している

■ 高架橋及び歩道橋

形態、意匠、素材及び色彩は、周辺の景観と調和するよう努めるとともに、地域の特性に配慮すること。

● 高架橋

○高架橋は市街地の景観を分断し圧迫感を与える。また桁下や周囲に陰の部分が発生させる目障りな景観要素であるため、景観的圧迫感を和らげる配慮が求められる。

- ・橋脚の形状や桁側部のデザインをスリムにして、巨大な土木構造物としての重量感、圧迫感を減少させ、軽快に感じさせる配慮が望まれる。
- ・橋脚の足元を植樹でつつみ、橋脚の重量感や圧迫感を和らげる必要がある。
- ・色彩は明るさや軽快さを表現する有効な要素であるが、構造物のみが周辺景観の中に浮き上がらないよう慎重な検討が必要である。



国道9号バイパス（松江市）
高架橋下の植樹帯で橋梁の煩雑感を軽減している



JR高架橋（松江市）
淡いクリーム色に青のラインを入れてすっきりさせている

● 横断歩道橋

- ・横断歩道橋の全体構造はシンプルなものとし、周辺景観となじむよう配慮する。
- ・景観変化の少ない単調な地域や著名な地点では、歩道橋を積極的に目立たせてランドマークとしての機能を持たせることも考えられる。

- ・道路利用者に対し煩雑感や圧迫感を与えないよう、側面、桁裏、橋脚部の処理に配慮する。
- ・昇降部の設置位置、形態デザインについて煩雑感や違和感を与えないよう配慮する。都市部については可能であれば沿道施設との一体的な整備についても検討が望まれる。



国道54号（木次町）
横断歩道橋の色彩を褐色にしている



三瓶山（大田市）
三瓶こもれ日館の木製横断歩道橋

■ 交差点

交差点に設置される信号、照明施設、標識等の形態、意匠、素材及び色彩については周辺の景観と調和するよう努めるとともに、地域の特性又は統一性に配慮すること。

- ・交通の安全性を十分に確保した上で、道路と道路の接点であり、景観上の要所であることを意識した景観形成や広場的空間構成への配慮が望まれる。
- ・交差点角地は、目につきやすい箇所であり、隅きりの形状や角地の利用については、沿道との一体的な整備も合わせて検討することが望まれる。
- ・植栽やモニュメントなどによって、シンボリックな街角として整備することも有効である。
- ・交通島を設ける場合には、交通の安全性を守ることができる範囲で、植栽等の修景を行うことが望まれる。
- ・交差点には、信号機、道路標識、各種サイン、ガードレール、車止めなど多様な施設が設置されているため、これらをできるだけすっきりさせていくよう配慮する。

●共通編 防護柵、照明施設、標識・公共広告等参照のこと。

■ 歩道及び自転車道

1. 歩道及び自転車道の形態、意匠及び色彩については、周辺の景観と調和するよう努めること。
2. 潤いの場としてベンチ、モニュメント等を歩道に設置する場合は、周辺の景観と調和するよう努めるとともに、地域の特性又は統一性に配慮すること。

●共通指針 舗装、景観に配慮した占用行為の項参照のこと。



塩見縄手（松江市）
武家屋敷と調和した歩道



出雲路自転車道（出雲市）

●横断地下道

- ・横断地下道の出入口部は、目立ちやすい構造物となるので、他の構造物や附属物との一体的な取り扱いにより、違和感のない設置形態とし、控えめなデザインを検討する。
- ・地下横断歩道は、暗さや圧迫感をできる限り排除するよう内装や照明を工夫する。



国道9号バイパス（松江市）
樹木で修景された横断地下道出入口



袖師末次線（松江市）
子供の絵を焼きつけた唐板で壁面を修景

■ 道路附属物等

1. 防護柵、照明施設、案内標識等の形態、意匠、素材及び色彩については、周辺の景観と調和するよう努めるとともに、地域の特性又は統一性に配慮すること。
2. 道路の余裕地には、できる限り周辺の景観と調和したポケットパーク等を整備すること。

- ・交通事故の防止を図るため道路に設置される防護柵、照明施設、案内標識等はドライバー、歩行者、沿道住民の安全を確保できる範囲で、できるだけスマートなデザインのものを採用する。
- ・これらのデザインを行う場合は、舗装や路上のストリートファニチャー、高欄、沿道の建物などとのデザイン的な調和を図ることが必要である。

●共通指針 防護柵、照明施設、標識・公共広告等の項参照



国道9号（宍道町）
白地に青文字の案内標識



国道54号道の駅（掛合町）
道の駅「掛合の里」

道路緑化

都市部の道路については、できる限り連続した植え込みや街路樹帯を設けること。その他の道路でも必要に応じて緑化に努めること。

●都市部の道路

- 植栽は道路景観の主要な景観構成要素であることに留意して道路緑化を行うことが望ましい。
- 道路緑化においては、植物の成長も考慮した上で、植栽地の配置、配植の構造、樹種の選定および管理を行う。
- 街路樹を植えることのできる広さの歩道を確保し、植樹帯は可能な限り連続させることで、軸状のシーケンス景観となるとともに、歩行者にとって車道と歩道が分離され安心感が得られる。
- 樹種の選定
 - 将来の生育した姿を想定して決定する。
 - 道路の性格にふさわしい樹姿を選定する。
 - 季節変化による景観変化を考える。
 - 地域性を持った樹木の選定をする。
 - 見て美しい樹木の導入をはかる。
- 街路樹が育成して電線に当たる場合は、街路樹の頭を切るのではなく、電線を被覆する。
- 植樹計画や維持管理に住民参加を促し、沿道での花壇づくり、清掃等に努める。

●地方部の道路

- 人家連担部や学校周辺での街路樹の設置が必要である。
- 法面緑化については、共通指針（法面、緑の保全と緑化の項）参照のこと。

第IV章

4-4

施設別
1 道路
指針

島根県公共事業等景観形成指針



上乃木菅田線（松江市）
連続した街路樹



両側に植樹のある道路（斐川町）



斐川東中学校（斐川町）
両側に自転車歩行者道を設置した、学校進入路



浜田東公園前（浜田市）
既存の樹木を活かした中央分離帯



大東町こども広場進入路



広瀬町総合公園進入路
ブロック積み擁壁前面を低木と高木で修景